

令和8年3月13日（金曜日）

予算決算委員会総務分科会

第1委員会室

出席委員

西本眞造、金内義和、山口 悟、石堂大輔、
三和 衛、竹中由佳、嶋谷秀樹、坂本 学
小田響子

【総務委員会（政策局）の審査】

開会

11時37分

政策局

11時37分

送付議案説明

- ・議案第 1号 令和8年度姫路市一般会計予算
- ・議案第 7号 令和8年度姫路市奨学学術振興事業特別会計予算
- ・議案第13号 令和7年度姫路市一般会計補正予算（第8回）

質疑

11時42分

（質問）

新規事業の国際戦略の策定について、先日開催された第1回目の検討懇話会では「委員から姫路の強みが見えないといった厳しい意見が相次いだ」と新聞報道されたが、どのように考えているのか。

（答弁）

会議では、本市の国際化の現状と市が考える戦略の基本方針を示したところ、委員からは「それではどこの市でも同じであり、他都市と差別化を図るべきである」「社会実装できる内容にまでしたい」といった力強い意見をいただいた。市としてはこれらの意見を前向きに受け止め、戦略に反映させていく考えである。

（質問）

意見を受けて基本方針を大きく変更するのか。

（答弁）

委員の意見に盲目的に従うものではないが、十分に検討した上で参考にしていく考えである。

（質問）

中東情勢の悪化により、高校生のポーランドとチェコへの派遣が中止となったが、今後ほかにも影響はあるのか。

（答弁）

姉妹都市提携50周年記念としてフェニックス市への訪問を予定しているが、現時点で中止等の決定はしていない。参加者の安全を最優先に、外務省や在外公館、フェニックス市の最新情報を確認した上で実施可否を判断する。

（質問）

新規事業の海外視察団の受入れについては、受入れする国を想定しているのか。

（答弁）

台湾の大学等の関係者を招聘し、市内の教育機関や企業を見学してもらうほか、経済団体との意見交換を行いたいと考えている。

（質問）

新規事業の留学生受入促進モデル事業の展開について、他都市では企業のマッチング補助や住宅支援等を行っているが、本市ではどのような施策を実施する予定か。

（答弁）

本事業は単に留学生を受け入れることが目的ではなく、受入促進や円滑な就職、地域定着を図るためのモデル事業として、課題を抽出することを主目的としている。

（質問）

そうした事業は他都市でも実施しているので、多く課題は見ており、それを研究するだけでもよいのではと思ってしまう。多額の費用をかけるのであれば、一歩踏み込んだ支援を行うべきではないか。

（答弁）

継続的に事業を展開する中で具体的施策についても検討していきたい。

（質問）

留学生として受け入れる国を具体的に想定した事業なのか。

（答弁）

台湾からの留学生を想定している。総務委員会で説明したが、台湾との連携事業の一環として台北市に訪問した際に協議したものである。

（質問）

同事業の予算額として1,000万円が計上されているが、積算根拠はどのようなものか。

（答弁）

留学生の渡航費や滞在費、高等教育機関の受入支援金、企業でのインターンシップ費用、意見交換会の費用などである。

(質問)

留学生の人数も想定しているのか。

(答弁)

5名程度を想定している。

(質問)

5名で1,000万円となる内訳を説明されたい。

(答弁)

留学生の渡航費や滞在費で301万5,000円、高等教育機関の受入支援金31万円、企業でのインターンシップ費用5万円、エクスカッション・交流会42万円、あとは企画運営に係る経費として、インターン先の市内企業や、滞在中の留学生のサポート費用、また、継続的な受入れや地域定着における課題抽出と分析調査など447万円などである。

(要望)

留学生の受入れにそこまで費用をかけるのには理解できない。留学をしたい日本の学生が聞いたら怒ると思う。市民に負担を強いる公共施設の統廃合を先導する局であるからこそ何でも業者任せにするのではなく、もっと内容を精査されたい。

先ほど説明された積算根拠等の詳細資料の提出を要求する。(後刻提出あり)

(質問)

新規事業の姫路市若者世帯郊外UJ Iターン補助金交付事業のテレワーク加算について、本会議答弁ではグリーンファミリー制度の新幹線通勤助成金の利用実績がなかったため代替策として同加算を設けるとのことだったが、需要は見込めるのか。

(答弁)

移住定住に係る相談や大都市圏での移住フェア等で確認されることが多く、需要が見込まれるため補助金を拡充したものである。

(要望)

移住定住人口の増加に資するよう、PDCAサイクルを回して効果的な施策を継続的に実施されたい。

(質問)

歳入の奨学学術振興費寄附金は前年度の900万円から1,420万円へ増額されている一方で、歳出の奨学

事業に関する経費が約3分の2程度にとどまっているのはなぜなのか。

(答弁)

奨学事業に係る支出は在学期間の複数年にわたるためである。歳出予算は積み立てた寄附金を基に将来の給付見込み等を考慮して計上している。

役職定年者等挨拶

政策局終了

12時25分

【総務委員会(総務局)の審査】

総務局

14時16分

送付議案(説明省略)

・議案第1号 令和8年度姫路市一般会計予算

質疑

14時18分

(質問)

職員厚生費が前年度と比べ約4,000万円増加しているが、その理由はどのようなことか。

(答弁)

職員の健康管理として定期健康診断等を実施しているが、定年延長に伴い61歳時の節目検診を新たに設けたこと、また定期健康診断の診査項目の単価が上昇したこと、さらに市役所庁舎内保育施設の運営費を計上したことによる。

(質問)

人事管理費が前年度と比べ約2,300万円減少しているが、その理由はどのようなことか。

(答弁)

今年度に整備した市役所庁舎内保育施設関連の経費が減ったことが主な要因である。

(質問)

一般管理費の郵送搬送経費について、前年度と比べ約5,600万円減少しているが、その理由はどのようなものか。

(答弁)

デジタル化の進展により発送件数が減少している部分がある。郵送搬送経費については、庁内分を行政管理課が全額立替払いし、特別会計や企業会計に該当する分は後に科目更正で精算する方式を採用しており、歳出予算に余裕を持たせていたが、決算時に不用額が多いのではないかと指摘を受け、不用額の発生

を最小限に抑えるべく精査を行った。あわせて、これまで年度末に一括で行っていた精算処理を半年ごと、あるいは四半期ごとに実施する運用に改めた結果、郵送搬送経費の減額につながった

また、令和6年10月に郵便料金が約3割値上がりしたことを受け、各所属に対して発送の必要性を精査するよう通知した。例えば児童手当の振込通知については、かつて年3回送付していたものを、決定時や金額変更時のみの通知に見直すなど、発送通知の削減による経費節減に結び付けている。今後もこのような取組を継続的に進めていきたい。

(質問)

新規事業のAIメンタルヘルスの導入について、もう少し詳しく教えてほしい。

(答弁)

制度設計はこれからであるが、各職員に専用アカウントを付与し、職員が自らのスマートフォンやパソコンからアクセスできる仕組みを想定している。チャットを通じての対話やストレスチェックにより、心の健康状態を可視化し、早期に異常を検知することや、24時間いつでも相談できる窓口を提供することで相談のハードルを下げることを目的としている。

2年間ほど効果を検証し、本格導入するか判断したいと考えている。

(質問)

システムや業者は決まっているのか。

(答弁)

まだ決まっていない。予算成立後にプロポーザルを実施し、令和8年度前半には選定したい。

(質問)

システムに寄せられた相談内容などは活用するのか。

(答弁)

匿名性が重要であるため、個人が特定される情報を除いた形で集計・分析し、年代別の悩み傾向等の把握や今後のメンタルヘルス対策に活用できないか検討している。

(質問)

匿名性が重要である一方、深刻な相談があった場合はどう対応するのか。

(答弁)

例えば自殺願望等の高リスク事例が検知された場合には、産業医や保健師等による健康相談や精神科医等の専門窓口へ円滑に案内・接続できる仕組みを構築することを考えている。

(質問)

職員のメンタルヘルス対策を今後どのように進めていこうと考えているのか。

(答弁)

AIは、匿名性を確保することで気軽に相談でき、早期のセルフケアに大変有効であると考えているが、相談内容に応じて、これまでどおり産業医や保健師等の対面ケアにつなげていくことが適切であると考えており、AIと専門スタッフのハイブリッド型で対策を進めていきたい。

(要望)

職員が心身の健康を維持し、安心して働き続けることができるよう、AIに任せきりにせず、重要な局面ではしっかりと専門家によるサポートが受けられるようにされたい。

(質問)

新規事業の庁内アシスト制度における報奨制度の創設について、報奨の内容はどのようなものか。

(答弁)

現在総務局で実施している職員提案制度を参考に、従事した職員に表彰や図書券等の褒賞の授与を検討している。

(質問)

新規事業の一般職員の交際費計上について、どのような用途に支出する予定なのか。

(答弁)

交際費として、贈呈経費と懇談経費の2つの分類がある。

贈呈経費は慶弔費、見舞金等を想定しているが、現状では市長や教育長の名義で行っているケースが多いため、局長級職員が特に行うケースは少ないと考えている。

懇談経費はこれまで職員が自己負担してきた商工会議所や医師会、連合自治会等の各種団体との懇親会に係る経費を想定している。

関係団体が主催する懇親会等に積極的に参加し、顔合わせや情報共有を行うことは、関係団体との事業を

円滑に推進する上で必要であると考えている。

(質問)

他都市の状況はどうか。

(答弁)

他都市では、神戸市、兵庫県、京都府などでも公費で手当しようとしている。

(質問)

主に理事級職員が対象とあるが、部長・課長級の職員も自己負担している者はいるのではないか。

(答弁)

予算が成立すれば庁内で調整し支出基準を整備する予定である。その中で課長等についても必要性が認められる場合には支出対象とすることを含め検討していきたい。

(質問)

予算額の 150 万円の積算根拠はどのようなものなのか。

(答弁)

庁内の実態調査により、令和 7 年度における職員の外部団体との懇親会等に係る自己負担費用は合計で約 250 万円になる見込みであることが確認された。そのうち、公務であるものを精査した結果である。

(要望)

不適切な支出と疑念を持たれないよう情報公開に加え、支出基準の明確化やしっかりとした審査体制を構築されたい。

総務局終了

1 4 時 4 7 分

【総務委員会（監査事務局）の審査】

監査事務局

1 4 時 5 2 分

送付議案説明

・議案第 1 号 令和 8 年度姫路市一般会計予算

質疑

1 4 時 5 3 分

(質問)

令和 7 年度と比べ、報酬給与費が約 2,800 万円増額しているが、その主な理由は一般職 1 人の増員によるものか。

(答弁)

増員に加えて、1 人当たりの単価上昇もしている。増額の内訳は、給料が約 1,500 万円、職員手当等が約

800 万円、共済費が約 500 万円であり、これらの合計で約 2,800 万円の増額となっている。

監査事務局終了

1 4 時 5 4 分

公平委員会事務局

1 4 時 5 4 分

送付議案説明

・議案第 1 号 令和 8 年度姫路市一般会計予算

質疑

1 4 時 5 6 分

質問なし

公平委員会事務局終了

1 4 時 5 6 分

【総務委員会（公平委員会事務局）の審査】

会計課

1 4 時 5 7 分

送付議案（説明省略）

・議案第 1 号 令和 8 年度姫路市一般会計予算

質疑

1 4 時 5 8 分

(質問)

令和 6 年に公金取扱手数料が有料化されたが、手数料削減に向けて、どのように取り組んできたのか。

(答弁)

定期的に庁内通知を行い注意喚起に努めている。直近では 1 月に、正確な口座情報の把握による振込先相違による組戻や再振込の削減、同一人への振込が複数件ある場合は名寄せするなど、手数料削減に向けた運用の徹底について通知した。

(要望)

手数料削減に向けた研究を進められたい。

(質問)

負担金補助及び交付金が約 150 万円増額している理由はどのようなものか。

(答弁)

令和 8 年 9 月から地方税統一 QR コード (e L - Q R) の利用対象が地方税以外の公金に拡大されることに伴い、追加の負担金が計上されたことによる。

なお、本市では公金は国民健康保険料等への拡大を予定している。

(質問)

e L - Q R の利用の大小にかかわらず負担金は一定なのか。

(答弁)

負担金は公金収入額等に応じて算定される電子申告等関係費負担金の公金割と、利用実績に応じて変動する共同収納手数料負担金に分かれているため、利用状況に応じて総額は変動する。

会計課終了 15時04分
散会 15時04分

【総務委員会（会計課）の審査】

質疑 14時42分

質問なし

選挙管理委員会事務局終了 14時43分

議会事務局 14時43分

送付議案（説明省略）

・議案第1号 令和8年度姫路市一般会計予算

質疑 14時44分

質問なし

議会事務局終了 14時45分

【総務委員会（議会委員会事務局）の審査】

【総務委員会意見取りまとめ】

意見取りまとめ 14時57分

・分科会長報告について

留学生受入促進モデル事業の予算執行に当たっては、実勢価格を調査し精査されたいことを盛り込んだ上で、正副分科会長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了 14時58分

閉会 14時58分